

海況情報【内湾湾口観測結果】

愛知県水産試験場漁業生産研究所

令和6年11月27日

【観測結果（調査日：11月20、21、22日）】

11月20日に伊勢湾南部、22日に北部、22日に渥美外海の観測を実施しました。

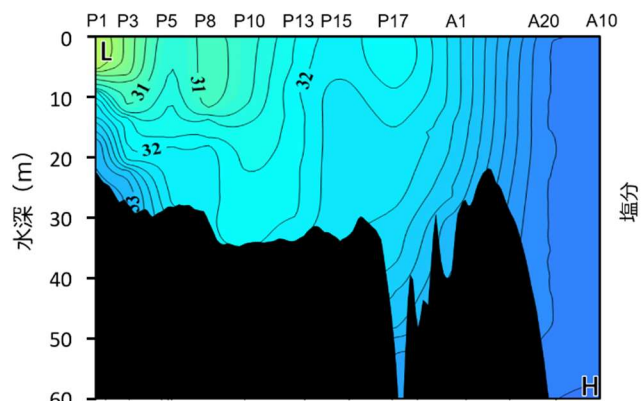
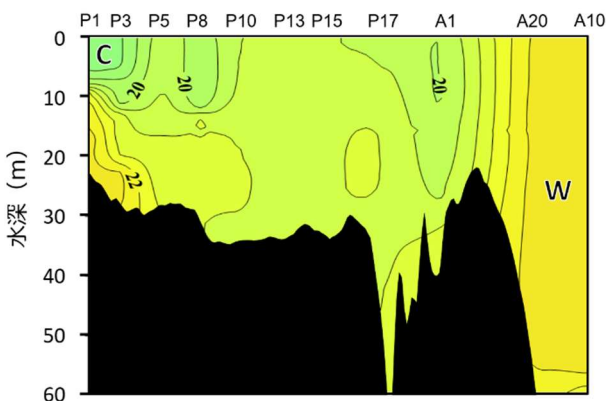
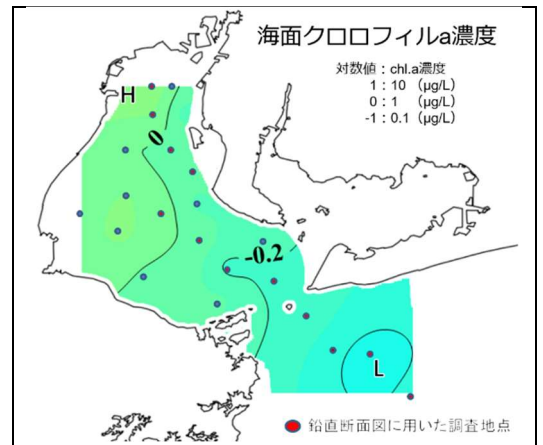
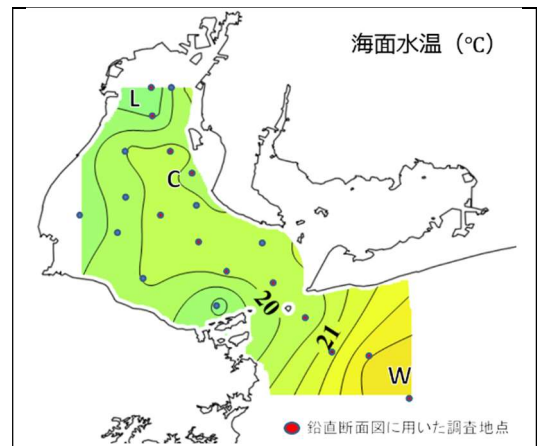
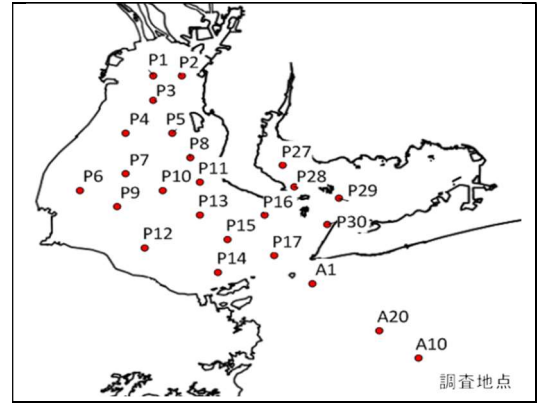
【水平分布（調査点：P1～A10）】

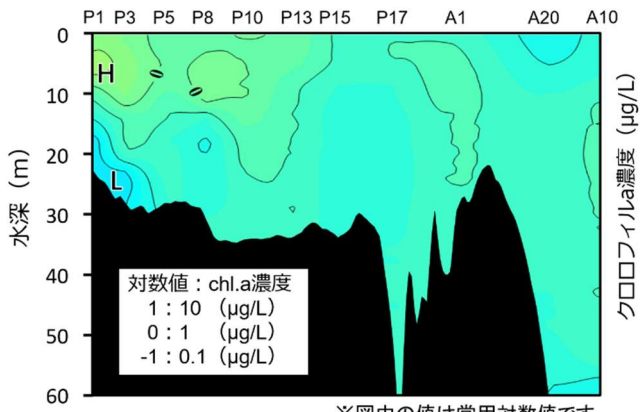
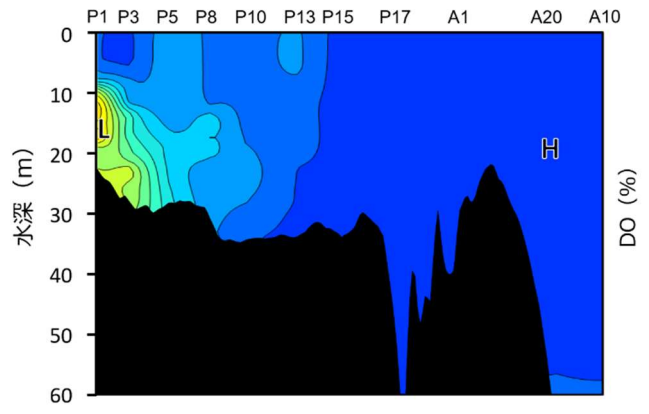
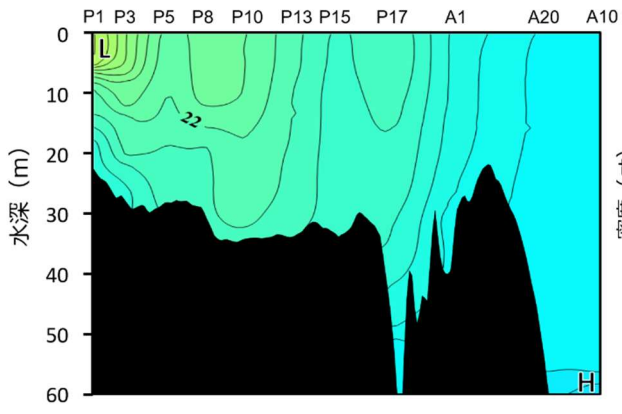
海面水温は、18.6℃から23.0℃となっており、伊勢湾湾奥と三重県側沿岸で低く、渥美外海が高くなっています。海面のクロロフィルa濃度は、伊勢湾の湾奥と三重県側沿岸で高く、渥美外海で低くなっています。渥美外海は、黒潮系暖水の波及の影響で高水温かつ低クロロフィルa濃度の傾向となっています。

【鉛直分布（調査点：P1～A10）】

伊勢湾湾奥～湾口の水温をみると、気温の低下に伴い表層から底層の水温差が小さくなっており、鉛直混合が盛んになっています。その結果、夏季に形成された成層が破壊され、底層に存在していた貧酸素水塊（溶存酸素濃度30%以下）が解消しています。一方、湾奥の水深約15m～海底には、高温・高塩分で溶存酸素濃度が50%以下の水塊が分布しており、湾奥は河川水の影響により成層が維持されており、湾央や湾口に比べて鉛直混合が弱いと考えられます。

クロロフィルa濃度は湾奥部の表層にピークがみられますが、全体的に濃度が低くなっています。





※図中の値は常用対数値です